

広げよう

第3号 (2003. 3)

コミュニティの輪

彩の国コミュニティ協議会会報



主な内容

P2・3 住みよい地域社会を目指して

—平成14年度顕彰事業—

(シラコバト賞、ふるさとづくり賞、花いっぱいコンクール)

P3・4 あたたかい気持ちをつなぐ地域通貨

P4 会員募集のお知らせ

住みよい地域社会を目指して

—平成14年度顕彰事業—

彩の国コミュニティ協議会では、住みよい地域社会にするためにコミュニティ活動を続けている方々に、「シラコバト賞」、「ふるさとづくり賞」、「花いっぱいコンクール」の表彰を行っています。

今年度も11月14日の「県民の日記念式典」で、会長である土屋知事から表彰いたしました。

3つの表彰について御紹介します。

ふるさとづくり賞

ふるさとづくり賞は、斬新な発想による個性豊かで活力のあるふるさとづくりに取り組んでいる、優れた集団、市町村、企業に贈られる表彰です。今年度は、県審査会で2団体が優秀賞に輝きました。

●春日部市大沼ゆりの木自治会（春日部市）

地域の人口増加により、平成12年4月に誕生した新しい自治会です。子どもからお年寄りまでが楽しめる「ふれあいコンサート」や日ごろ自治会活動に参加する機会の少ない男性を対象にした「ゴルフコンペ」など、ユニークな行事が評判を呼び、参加者も年々増えています。また、高齢者世帯や一人暮らしのお年寄りを地域で見守れるように、老人クラブ「大沼ゆりの木会」を自治会内に設立しています。このように、大沼ゆりの木自治会では、新興住宅地で、住民のふるさと意識の醸成に努めています。

花いっぱいコンクール

花いっぱいコンクールは、花や緑を育てることを通じて、ふれあいと思いやりのある美しい地域社会づくりに取り組んでいる学校や職場、地域の団体を表彰するものです。

平成14年度は、県審査会で最優秀賞に輝いた「川里町立屈巣小学校」（学校の部）と「鴻巣市生出塚団地自治会花のコミュニティ」（職場・地域の部）の2団体を中央審査会に推薦したところ、川里町立屈巣小学校が文部科学大臣奨励賞を、鴻巣市生出塚団地自治会花のコミュニティが厚生労働大臣賞を受賞しました。

大臣表彰状の伝達式は、12月17日に埼玉県県民健康センターで行われ、終了後、両団体は知事公館に土屋知事を訪ね、受賞の報告をしました。

それぞれの活動について紹介します。

シラコバト賞

皆さんの周りにも、近所の公園や道路の清掃をしている人や、道路脇に四季折々の花々を植えて、道行く人々の気持ちを和ませている人はいませんか。

シラコバト賞はこのように、地域を住みよくするための活動を地道に続けている個人や団体にお贈りしている賞で、平成14年度に34回目を迎えました。今回も、272件もの推薦をいただき、その中から、個人138名、団体61団体に贈呈しました。

隣近所の人とあまり関わりを持たずとしない世の中になってしまいましたが、自分の住む地域を良くしたいという思いで活動を続けている方は、まだまだたくさんいらっしゃいます。このような方がいましたら、ぜひシラコバト賞に御推薦ください。

●社団法人 草加青年会議所（草加市）

草加青年会議所では、そのネットワークを生かして住民や行政と協力し、「ふるさと草加創生事業」を実施しています。綾瀬川に不法投棄された自転車やバイクを釣り感覚で引き上げる「サルベージイベント」は、草加の美しい風景を守る試みとして各方面で取り上げられました。また、子ども達が描く夢を自分達の手で実現させる「子どもフェスタ」では、小中学生からなる子ども実行委員会がスタッフとして大活躍。「大鍋に豚汁を作ってみんなに配りたい」という夢を実現させました。草加青年会議所は、市民のふるさと意識の醸成に努めながら、子ども達に夢と希望を与えるまちづくりに取り組んでいます。

●川里町立^{くす}屈巣小学校（川里町）



親子で花壇づくり

全校児童で花いっぱい運動に取り組み、学校全体が四季折々の花々に囲まれています。クラスごとに植える花や色合いを考えた、個性豊かな学級花壇を作っているため、休日には地元や他の地域から見学や花摘みを楽しむ方が訪れるほどです。また、地域との交流も

活発で、町内の福祉施設「川里苑」に出かけて花壇をつくる活動をきっかけに、お年寄りとのふれあいを深めています。また、花の栽培指導は、地元の生産者の方にも協力してもらっています。その他にも、育てた花を町の行事や地元のサークルに提供したり、コミュニティセンターや図書館にプランターを贈って花の管理を行い、花を通じた交流の輪を広げています。

屈巢小学校では、地域と一体となって、児童のやさしい心を育てています。

●^{おいねづか}鴻巣市生出塚団地自治会花のコミュニティ（鴻巣市）

平成7年に会が発足し、現在会員は約100名。団地内の公園や遊水池など、すべての公共用地に花壇を作り、住民のコミュニティの場とする活動を続けています。公園では、会員が丹誠込めて育てたサルビアや千日紅をはじめとする色とりどりの花が、訪れる人々の目を楽しませてくれます。広大な面積に四季を通じて花を咲かせるため、年間に育てる花苗は300種5万株にも昇ります。会の温室まで作って種から育てて

いく栽培は大変ですが、花づくりの醍醐味でもあるそうです。他団体との交流も活発で、育てた苗を団地内の保育所や小学校に配ったり、各種イベントで花づくりの指導をするなど、活動を通して花づくりの輪が広がってきています。また、各家庭でも花の栽培を楽しむ愛好家が増えているそうです。

会では、枯れ草や剪定した枝を利用した用土づくりにも取り組み、「地球に優しい花づくり」を合い言葉に花いっぱい運動を進めています。



生出塚団地1号公園の花壇

あたたかい気持ちをつなぐ地域通貨

テレビや新聞などで「地域通貨」という言葉を、耳にしたことはありませんか？

地域通貨とは、地域やグループの中で、誰かの手助けをしたり、してもらったりした時に、その善意のお礼としてやりとりされるお金のようなものです。円とは違った“ありがとう”の気持ちを伝えるあたたかいお金とも言われており、「おうみ」、「クリン」、「ピーナッツ」など、名前もいろいろあります。

現在、国内でも130種類以上の地域通貨が発行されていて、各地で流通しています。

主に、「自分ができること」と「自分がしてほしいこと」を登録して、何か助けが必要な人に対して、「自分ができること」でお手伝いをしたり、また、自分が何かしてもらいたい時に、誰かに助けを求められることができるという仕組みになっています。

地域通貨は、地域住民のふれあいや交流を深める、新たなコミュニティづくりの役割を果たすものとして、県内でもいくつかの地域で流通が始まったり、発行に向けた準備が進められています。

ここでは、県内、県外で活動している3つの団体を御紹介します。

●飯能市吾野地域「グリーン」

「誰でも入れる」、これがグリーの最大のメリットです。

吾野地域では、まちづくりの推進のために「地域人材バンク制度づくり」を計画していました。しかし、アンケート調査の結果、65歳以上の高齢者の割合が28%以上のこの地域では、自動車での送迎や草刈り

など、日常生活での手助けを必要としている人が多いことがわかり、誰でも入れることができ、高齢化社会にも対応しやすい地域通貨を取り入れました。

平成14年の6月からスタートし、現在、地域の人口約3,200人のうち会員は約430人。

会員は、入会時に配られる会員名簿を見ながら、連絡を取り合って「グリーン」のやりとりをします。名簿には会員の「私のできること」、「私のしてほしいこと」、「私の趣味・特技」が地域別に記載されており、また、できることなどの項目別の検索もできるようになっています。

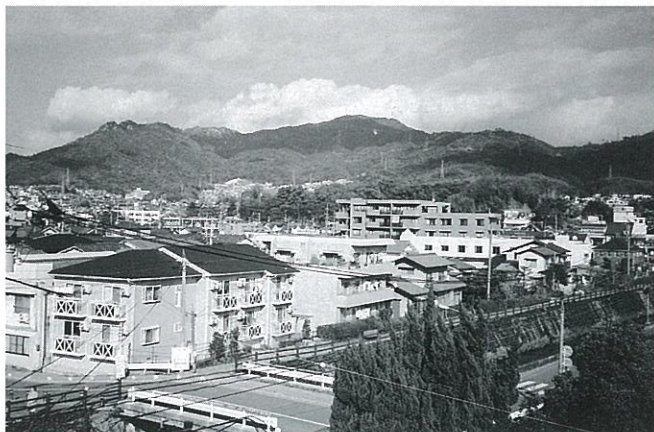
グリーンの利用は、主に日常生活の中でしてほしいこと、できることの交換が多く、こうしたサービスのやりとりで、一人暮らしの方など行政の目が届きにくいところにも手が行き届きます。

今後は、子どもたちも一緒に参加できる取り組みも考えており、善意を交換し合うグリーの輪は、ますます広がっていきそうです。



参加申込書と「グリーン」の紙幣（3種類）

●広島県府中町「FUTURE（ふちゅー）」



府中町の街並み

府中町は、周囲を広島市に囲まれ、北東側は山林、南西側は平地の広がる人口約5万人の町です。

平成14年度に環境省の温暖化防止活動モデル事業に選ばれ、二酸化炭素の排出削減に地域通貨を取り入れた省エネトライアルを、10月から3回実施しました。

このトライアルの取り組みは2週間。まず、省エネの取り組みに参加してくれる家庭に省エネトライアルシートを発行して、1週目は普段どおりに過ごしてもらいます。2週目は、「冷蔵庫に物を詰めすぎない」、「暖房の温度を1度下げる」などの省エネを意識した生活を送り、1週目と2週目の電気等のエネルギー使用料をチェック。エネルギー消費の変化をトライアルシートに記入し、その削減量に応じて地域通貨を発行するというものです。

獲得した地域通貨は、町の祭りでの脱温暖化ゲームやバザーで使えたり、また、省エネ活動の成果のシンボルとして、環境にやさしいヒマラヤザクラの苗木と交換することもできます。

町民には、トライアル実施の前に体験学習会を開催して、ただ説明を聞くだけでなく、実際に使ってみることで、より地域通貨を理解してもらうようにしました。

府中町では、地域通貨をさらに広めていくために、町民からアイデアを募ったり、町内循環バスや太陽光発電への利用を計画するなど、環境を大切にしたい町ならではの取り組みを進めています。

●東京都多摩ニュータウン「COMO」

COMOは、様々な分野の人たちが協力して多摩ニュータウンについて研究、学習する団体「多摩ニュータウン学会」のコミュニティ部会から誕生しました。

多摩ニュータウンは、様々な出身地の人々が移り住んできた街の上、入居開始時から住んでいる方が一斉に高齢期を迎えるなど、コミュニティを形成するのはなかなか難しい地域です。

こうした状況から、地域の人々がお互いに助け合い、支えあっていくための方法として、地域通貨を導入しました。

平成12年6月から1年間の実証実験を経て、翌年7月から本格的に開始。国内の地域通貨の中では先駆格です。現在の会員は約100名で、小学生から80代の方までいます。会員の多くは、多摩ニュータウン区域の多摩、稲城、八王子、町田市の住民ですが、エリアを限定していないため、中には、横浜市や世田谷区の会員もいます。

入会すると、10,000COMO分の紙札が交付され、インターネット上のホームページを見ながら、できることとしてほしいことのやりとりをします。自分の趣味や特技などのサービスの交換が多いのが特徴で、会員が自ら講師となる、「COMOパーティー」を開催して、ハーブ講習会や本格餃子づくりなどを通じて、会員のつながりを深めています。

実行委員会のCOMO倶楽部では、今後は、障害のある方をサポートしたり、小さな子どもを預かったりといった、本当に困っていることにもCOMOが使えて、みんなで支え合える地域づくりを目指しています。



多摩ニュータウン永山地区

🌸 会員募集のお知らせ 🌸

彩の国コミュニティ協議会は、「豊かな彩の国づくり」を目指し、住民・企業・行政が一体となって、知恵と力を出し合い、住みよい地域社会づくりを進めるため、様々な取り組みを展開しています。

こうした取り組みは、会員の皆さんの協力によって成り立っています。今後、コミュニティ活動をさらに活発にするため、協力していただける新規会員を募集しています。

編集・発行

彩の国コミュニティ協議会 埼玉県県民生活課内

〒330-9301

さいたま市浦和区高砂3-15-1
(4月1日から)

TEL 048-830-2819

FAX 048-830-4750

ホームページ <http://www.pref.saitama.jp/A01/BQ00/community/com.htm>